

金大中氏への死刑を阻止しよう!

【情報が漏洩している】

金大中に対する死刑判決へ死刑をめぐる動きについて、二二数日様にたる情報は亂れ飛び始めた。しかし、これら相互矛盾するいくつつの情報を判断すると、我々は「緊急了色ール」で訴えた、12・5死刑判決一年以内死刑というスケジュールが全三漢により用意されていることにはやけに確実である。

金大中の動向をめぐる新しい情報は次の二つである。
①12月1日付「ニューヨーカーブタイムズ」紙社説は「今週中に米法院は金大中氏の死刑判決を確認……その後数時間以内に死刑」と伝え、それを阻む為に米政府に特使の派遣を強く訴えている。

②二の「ニューヨーカーブタイムズ」の指摘に関して、同曰「外務省筋」は、「在韓日本大使館など彼らの情報を総合」した結果として「判決は今週中にに行なわれるやうな緊迫した動きは見られず、判決は来週以降になるだろ」としている。

更に翌2日、崔慶模駐日韓国大使は、社民連の田英夫に対して、「(金大中氏の運命)大変憂慮される状況になっていることを前提としながら「今月5日に最終判決といわれるは全くデマである」と述べている。

こうして様にたる情報・憶測は飛び乱ればされていふことに警戒しよう。12・5死刑確定(大法院判決)一年内死刑という情報は、既に11月中旬から、教会・家族関係者などから仕込まれ、その後も他の関係からも確認されてきた。そうした中で日本における金大中の救出運動は、この12・5に最大の焦東を差えて展開されており、我々もどうであり、これは正しいことである。それは12・5に向けての運動本につけた今の時期になり、外務省・金大中氏らを殺さない
韓国政府断り、

「今週中に判決な
光州を裁ひせるな！」

「」の情報が漏洩されるということは、救出運動の情勢混亂、12・5へ向けて緊張感をもって展開されている運動への楽観論の持ち込みによるシナリオを狙ったものと考えざるを得ない。

我々としては、あくまでもニューヨーカーブタイムズ等の社説を保って信じているが、年廿四時における判決後数時間内「今週中の死刑」をこそ強く警戒しなければならない。

今、我々が用ひなければならないのは、全ゆる面から漏洩される樂観論の持ち込みであり、警戒すべきはそれにぶりつきだす我々の心の危険である。

【排外主義を乗り越え、「阻止」をうち取ろう】

日本政府の死刑台賛一派としての「憂慮」表明、一西園内の民衆の排外主義運動、「抗議化」という形で行き思つておつづけた筆頭は我々の分析した通りに進んだ。12月1日韓国へ帰住した従姫之都大使は、金東選外相代理と会談、「①日本政府として、財政干渉の實図及び裁判上影響力を及ぼさうとの意をもない。

②西園内の政治関係については、今後も發展、強化させたいという日本の基本的立場であり、韓国内の裁判問題と日本の対北交流拡大をリンクさせようという考えは全くない」と語り「事態の沈黙化」をばらんの猿芝居を終った。27日にしろした全三漢への金木「親書」からマコツヤシのとされてしまった。

又前回の我々アッピールで指摘した運動の排外主義的歪曲の面がある。27日の金木・崔会談の韓国マスコミのスッパ抜きと反日キヤンペーン・詐言露骨による韓国製品不買の提唱等による韓国内の反日運動の激化、こうした事態に心から気が付いた反・統計団体は不買を撤回したが、既に金大中問題を日韓の民族矛盾排外主義へとアタリを打って進んでゆく道はひらけてしまった。

更に、日本政府の「憂慮」の本である「成果」と呼び、自分達の何をしない一部の諸君がいる。彼らにどうぞ、金大中の生死などハナハラ問題ではなく、自らの海外拡張と「威儀」を自らのサーキュラリ主義的運動にビンディングするなどお金でのみである。

金木はいざこざの金大中の生死はあやつらいが「阻止」をさるは吾乃休全である。12・5集会入場

緊急行動室